

東 北 本 線 栗 橋 中 田 間

鐵道線路及び橋梁の被害

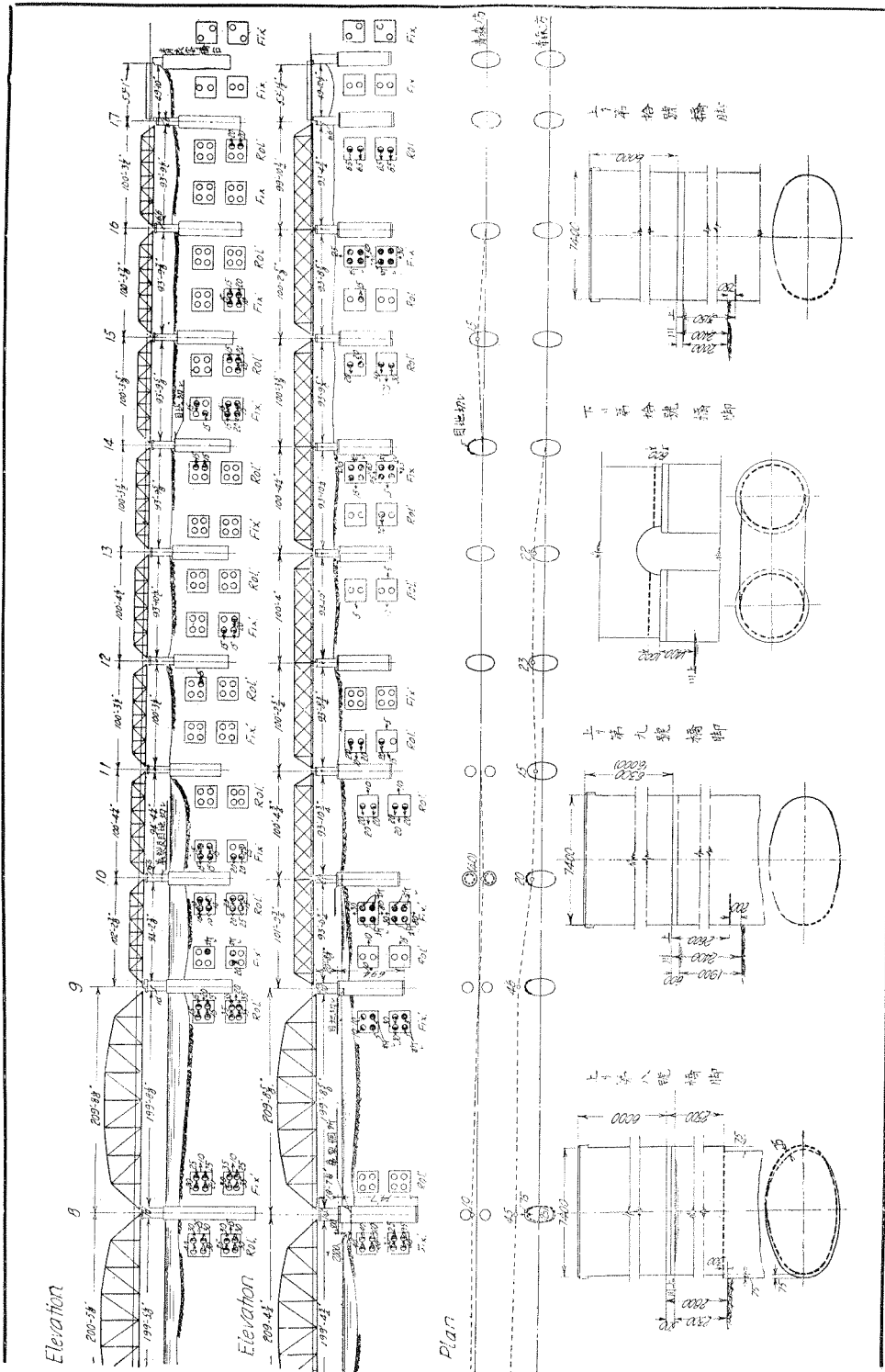
昭和六年秋季に入り埼玉縣地方に屢々地震があつた。九月二十一日午前十一時二十分熊谷町を距る南西20度の地震、震動繼續する強震は水平震動最大消耗、震動繼續時間15分、熊谷湖候所測定、間、及び其震動、及び埼玉縣南西部地方に甚しき災害を來したが、特に此地地方を貫通してなる鐵道省の高崎線、八高線及び東北線の一部份は諸建物に甚大の被害があつた。爲に八甲線全部、高崎線一部份、一時間運轉不能となり、高崎間の長區間に亘り各列車徐行運轉の餘義なきに至つた。

被害は赤羽河口間の荒川橋梁附近の築堤約30耗の沈下を初め各所に線路の移動不陸を來し、其最も大なるは吹上、熊谷上間の荒川橋梁附近の築堤100耗沈下し、數ヶ所移動水し、熊谷線にては給水鐵管、數建物としては大宮工場の煉瓦積壁、最も甚しく、其他官舎の家様壁等破しかつた。被害額は建物4萬圓、鐵道4萬7千圓であるが、大宮工場及び橋梁は別に算行され、應急作業は震災後速に實行されつゝあるも、非常中在在に於て被害状況の最も參考とするべきき利根川橋梁に就て圖示すれば次の如し。如くヒアの折斷ヶ所は何れも川底である。此等ヒアは煉瓦卷、中埋混泥土である。

凡 例

- 一、 徑間表は前大震災後の調査に係るものを掲記す
- 二、 折損せるアンカーボルト47本
- 屈曲せるアンカーボルト190本
- 異状なきアンカーボルト211本
- 移動せる床敷の方向及量(消耗ヶ所)
- 移動せる床敷(97ヶ所)

----- 本圖面に於ける點線は線路の移動量を示す
 (耗) を又弧内の數字は其沈下量を示す



利根川橋梁變狀調查圖(昭和六年九月)